

# 一つの約束

太宰治

青空文庫



難破して、わが身は怒濤に巻き込まれ、海岸にたたきつけられ、必死にしがみついた所は、燈台の窓縁である。やれ、嬉しや、たすけを求めて叫ぼうとして、窓の内を見ると、今しも燈台守の夫婦とその幼き女兒とが、つつましくも仕合せな夕食の最中である。ああ、いけねえ、と思つた。おれの凄惨な一声で、この団だん欒らんが滅茶々々になるのだ、と思つたら喉のどまで出かかった「助けて！」の聲がほんの一瞬戸惑つた。ほんの一瞬である。たちまち、ざぶりと大波が押し寄せ、その内気な遭難者のからだを一呑みにして、沖遠く拉らし去つた。

もはや、たすかる道理は無い。

この遭難者の美しい行為を、一体、誰が見ていたのだろうか。誰も見てやしない。燈台守は何も知らずに一家団欒の食事を続けていたに違いないし、遭難者は怒濤にもまれて（或いは吹雪の夜であつたかも知れぬ）ひとりで死んでいったのだ。月も星も、それを見ていなかった。しかも、その美しい行為は厳然たる事実として、語られている。

言いかえれば、これは作者の一夜の幻想に端を発しているのである。

けれども、その美談は決して嘘ではない。たしかに、そのような事実が、この世に在ったのである。

ここに作者の幻想の不思議が存在する。事實は、小説よりも奇

なり、と言う。しかし誰も見ていない事実だつて世の中には、あるのだ。そうして、そのような事実からこそ、高貴な宝玉が光つて  
いる場合が多いのだ、それをこそ書きたいというのが、作者の生  
甲斐になつてゐる。

第一線に於いて、戦つて居られる諸君。意を安んじ給え。誰にも知られぬ或る日、或る一隅に於ける諸君の美しい行為は、かならず一群の作者たちに依つて、あやまたず、のこりくまなく、子々孫々に語り伝えられるであらう。日本の文学の歴史は、三千年来それを行い、今後もまた、変る事なく、その伝統を継承する。



# 青空文庫情報

底本：「道化の精神」 大和出版

1969（昭和44）年2月28日初版発行

1992（平成4）年6月30日新装1刷発行

初出：青森県某誌

1944（昭和19）年頃

入力：青空文庫

校正：土屋隆

2005年1月15日作成

2011年1月31日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# 一つの約束

太宰治

2020年 7月13日 初版

## 奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>